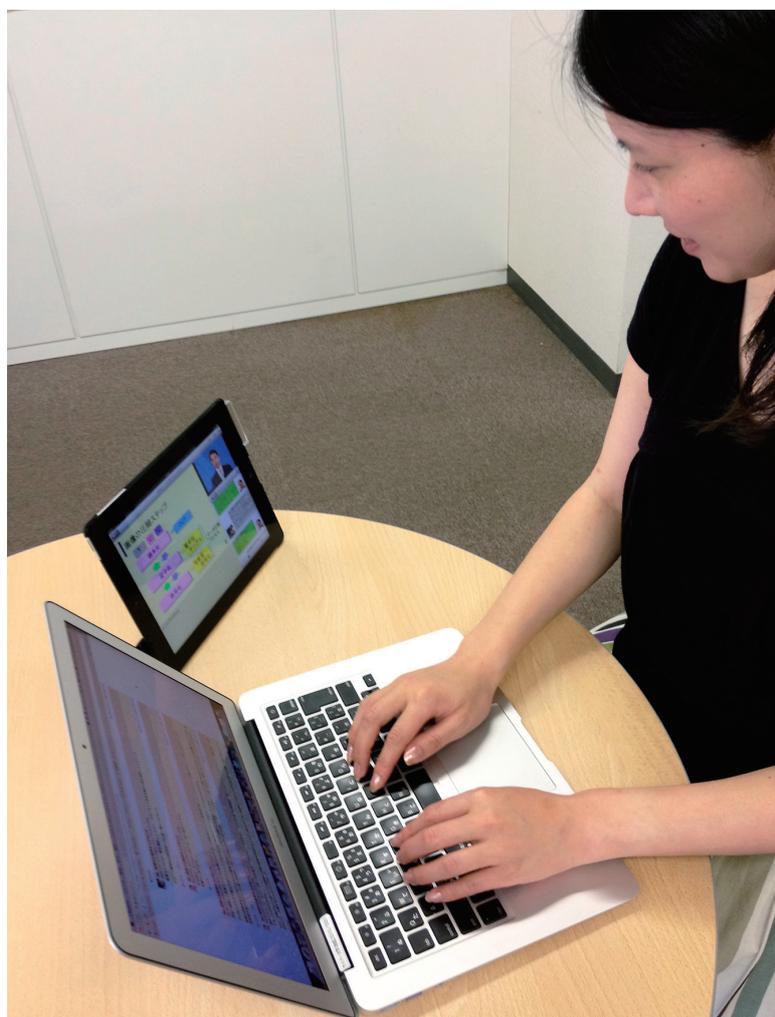


# eラーニング研究

—サイバー大学のeラーニング教育システム—

第2号



サイバー大学



# はじめに

サイバー大学「eラーニング研究」の第2号をお届けします。

創刊号からこの第2号の発刊にいたるまで、1年半の時間を要してしまいました。これには大きな理由があります。

実は、創刊号の刊行（2010年11月）から、第2号の刊行（2012年6月）にかけて本学のeラーニングシステムが大きな変貌を遂げました。どれくらい大きな変化かといいますと、これまで5年間使ってきた本学のLMSを世界の大学や企業、組織団体で最も使われているMoodleに置き換えました。このことによって、授業運営システム改善のために時間とコストをかけて自らLMSの保守をする方針から、世界中の大学・教育者のノウハウや運用モデルの膨大な蓄積から選択する方針に切り替えたのです。

しかし、私たちがシステム開発から解放されることは全くありませんでした。LMSをMoodleに委ねた一方で、モバイル端末でもパソコンと同様の、あるいはそれ以上の学習効果を上げるにはどのようなアプリケーションが必要なのか。モバイル端末で受講しても出席認定するには、どのような本人確認をどのタイミングで行うべきなのか。さらに、ひとりの学生がモバイル端末やPCなど、複数の学習端末をそれぞれの利用シーンによって使い分けても、端末間の学習履歴はすべて同期が取れるようにするとどのような効果があるのか。さらにSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）の運用に準じたフォーラム（ディベート）にした場合、授業内のコミュニケーションに変化は現れるのか、多くの課題と期待が寄せられました。

このような全く新しい学習環境を私たちはクラウド型eラーニングと称して（短縮してクラウドラーニング）、2012年春学期よりMoodleによるLMSとiPadとiPhoneによるモバイル端末向けアプリケーションによる統合学習システムにすべて切り替えました。その結果については、実績報告と分析結果を「eラーニング研究 第3号」として発刊することになるでしょう。

この第2号はこのような大きな過渡期に編纂されました。本号に寄せられた様々な授業現場からの報告や学生指導に関する報告を、さらなる変化を求め続けるサイバー大学の遠隔教育への取り組みに対する予告編として理解していただきながら、完成年度を終えた本学の活動のひとつの集大成としてご覧いただければ幸いです。

サイバー大学 学長 川原 洋

# 目 次

はじめに

第1章	類似文書抽出による自由記述分析と授業改善について	松田 健	1
第2章	アクセシビリティ向上活動	前川 徹	13
第3章	クラウドとモバイルコンピューティングがもたらす eラーニングの進化と可能性	川原 洋	23
第4章	遠隔教育におけるワークショップ授業の試み	川原 洋 松本早野香	35
第5章	授業モデルケーススタディ：卒業研究論文指導	佐々木 伸	45
第6章	授業モデルケーススタディ：卒業研究論文指導	矢野 直明	57
第7章	サイバー大学における演習講義の取り組み： JAVA プログラミング演習事例報告	横山 輝明	67
第8章	インターネットのみを利用して授業を行う 大学における実技・実習教育の試み —文化財の保存修復などの能力を 身に付けさせる技術教育を事例として—	小野 邦彦	79
第9章	サイバー大学学生に対するアンケート調査報告	松本早野香	89
第10章	遠隔教育における科目外履修サポートの一事例	松本早野香 澤井 計宏	105
第11章	eラーニングを活用したリテラシー教育の取り組み	佐野 琴音	113